

第5回新居浜市学校給食検討委員会会議録

平成26年2月13日(木)

13時30分～15時00分

新居浜市学校給食センター研修室

(1) 開会挨拶 検討委員会委員長

本日もお寒い中お集まりいただきありがとうございます。

本委員会も第5回目を迎えました。前回まで4回の会を持ち、委員さんそれぞれの立場からの検討をしていただきました。今回は提言に向けて具体的な内容の話し合いを持ちたいと思います。なお傍聴人の方をお願いいたします。傍聴人には発言権がございませんので、静かにお聞きください。

- ・欠席委員3名、眞鍋副委員長、永易委員(市P連代表)、徳原委員(市民代表)。
- ・傍聴人8名

(2) 議事

1) 「建替方法の検討」、2) 「提言内容の検討」

(事務局)

前回委員からご提案のありました、「DVDでの学校給食方式の研修を」ということでしたので、議事の前に、神奈川県厚木市教育委員会教育研究所が平成19年に作成いたしました「センター方式における小学校給食の流れと、単独調理場におけるセンター方式にはない視点から、それぞれ紹介しているDVDを視聴いただきたいと思えます。それぞれ20分ずつです。

(DVD視聴)

資料について説明いたします。前回まで本委員会で話し合いました「比較検討表」を分かりやすくするため、メリット別とデメリット別に分けて表にしました。また「学校給食委員会議論内容」の表は、前回までの議論の中で出されました、意見内容、またその回答や議論結果をまとめたものです。

(委員長) では、具体的な提言を行うわけですが、その具体的な建替え方法の内容でも結構ですし、このような条件ならこちらというものでも結構です。率直にどなたかごいませんか。本日事務局からの資料についてもまだ内容について議論が必要なものがありましたらそちらも含めてお願いします。

(委員) 今年はノロウイルスなどの発生が全国的に多く、また一度被害がでると、大規模な被害になる危険性があります。根本的なことですが、衛生面について衛生管理がきちんとできる施設の検討をお願いしたい。現在でもソフト面、ハード面でも一生懸命現場はしているが、それが追い付いてない面もある。いずれの方式においても、衛生面を第一に考え、管理も含めて徹底できるようにしてほしい。

(委員長) 今年はノロウイルスの事故が多いようです。星加委員が言われるソフト面とは、調理員の日々の注意や研修などで徹底するということはもちろん大事ですが、ハード面で具体的に提言に盛り込むことはどのようなことでしょうか。

(委員) 具体的には、ノロウイルスの拡大にもつながる「トイレ」でしょうか。特に今は調理員専用のトイレがセンター以外にはなく、児童と共用しているのが現状です。これは危険性も考慮して建替えまで待たず、すぐにでも改善してほしいことです。それとDVDにもありましたが現在の施設は作業区分がない。調理と下処理をする部屋、

それと検収室の区分がない。また午後からの食器や調理器具、洗浄も同じ場所で行っているのが現状です。衛生管理基準に沿った調理場を学校内に建設するとなると、現在の1.5倍から2倍はかかるのはそのためであり、それに付随して排水も新たに大きなものが必要になると思う。

(委員長) 他に衛生面で気になるような事はないでしょうか。

(委員) この件について、市P連で独自に各小中学校のPTA役員にアンケートをとり、市P連の役員会でも話し合いを持ちました。その結果、小学校のPTAは、温かいものは温かいうちに、など自校式でやれるメリットの方が大きいという回答が多く、中学校はほぼ無回答で、それだけ市にお任せしているのではないかという感じでした。いずれにしても、私自身は川東中学校のPTAですが、防災に関しては、多喜浜小、神郷小など、川東の学校は避難場所にはなっているが、何らかのトラブル、たとえば津波であると、浮島、垣生、多喜浜小学校は避難場所にはならない。大雨であると川東中学校、神郷小学校も使えない、という状況である。自校式にするのであればそのまま防災管理機能もしっかりした自校式に、例えば屋上にヘリポートを設置したり、備蓄機能などは非常に欲しいとの気持ちが市P連にはある。またセンター方式にするのであれば、当然避難場所、寝泊まりできる毛布等など、また食料などの備蓄が可能になるような倉庫の大きさなど、どのような災害にも強い防災センターの位置も最低条件として作っていただきたい。最近の配送システムなので温かいものは温かいうちに運べると思うし、中学生に聞いてもそのようです。

雇用についても、センターになっても確保されると思う。小学生は特に食育については給食だけでなく、学校の方でしっかりやっていけばいいのかな、と思う。自校式でする場合は、最初にあったように土地の大きさや、改装費などで税金に負担もかけるのでは、というのはデータで出ているし……。いずれにしても防災センターを兼ね備えた給食施設を作っていただきたいと市P連では考えている。

(委員長) 小学校と中学校では、かなり受け取り方に違いがあるということですね。

(委員) 中学校給食は温かく、小学校との違いもあまりなく、9割以上が給食になっていますが、特にクレームも耳に入りません。皆に色々聞いても、普通にあたたかく普通に食べている、ということです。ただ小学校は「食育」が大切なので、センター方式になるなら「食育」に関して上手くしなければいけないと思う。

(委員長) PTAとしてはこの建替えを機に、子どもたちの安全を考え、防災に強い施設を切望していることですね。前日も事務局からその件についての考えがありました、いかがでしょうか。

(事務局) 現在お話しできるのは、市役所防災安全課より防災に関してセンターに対して備蓄倉庫にならないかとのお話がありました。ただ当施設はその用途で作られたわけではありませので、改造しなければ備蓄倉庫にはならないと返答しています。渡邊委員さんが言われた「災害に強い調理場」にするのであれば、それを踏まえて防災安全課と相談しながら、ヘリポートまでは難しい可能性があるが、検討の材料になると思います。単独調理場にするにしても、現在でも2倍の面積になりますが、それを複数階にするなども含めて検討していくことになると思います。

(委員) 中学校校長会で1月10日、前回までの「比較検討表」を事前に校長先生に配布し、よく読んでもらったうえで意見交換をおこないました。中学校はほとんどがセンター方式だが、長年事故もなく、安全面についても問題はなかったとの皆さんの意見でした。また小さな問題についても、センターに連絡をとれば迅速な対応をいただいたという事実。何より安全面でセンター方式で大きく不安を感じるような事はなかったとのことでした。建設費や維持管理の費用対効果も考えるとセンター方式を採用する必要があると思う。ただスムーズな運営ができるセンターにするには、市内に数カ

所建設される必要があると思う。以上が中学校校長会の意見です。そこで出た質問ですが、センター方式になった場合、調理員の雇用面はどのようになりますか。

(委員長) 中学校校長会では特にセンター方式で問題はないという意見ですね。質問にありました雇用について事務局で説明できるところがあればお願いします。

(事務局) 自校単独方式は各調理場に正規調理員、パート調理員がいらっしゃいます。自校方式であれば今の状態は変わらず、各校に配置することになります。センター方式になった場合、なお複数のセンターになった場合、正規職員はそれぞれのセンターに配置し、調理面、衛生面でのリーダーとなっていただき、パート調理員の研修などもしていただくことになろうかと考えますが、それは具体的にいつの時点で人事当局との協議になります。

(委員) 小学校校長会でも話し合いました。その結果、まだ子どもが感謝の心やふれあいの気持ちを育てている発達段階の途中であり、給食も作っているところを見せなければならぬと思いますので、費用的な面は置いておいて、できるのであれば自校式調理場の方が柔軟に対応していけるのではないかと思います。バイキング、マナー給食をはじめ、個々にアレルギー給食にも細かく対応できると思います。また校時によって給食の時間が変わることもあり、その点でも助かります。防災に関しても給食室で炊き出しも出来たらいいねと話し合いました。

(委員長) 費用の事を除いては、小学校では自校方式がいいとのことでした。特に食育が大切ということですが、配置も含めて、そのために栄養士はどのように役割でしょうか。

(委員) 新居浜市の栄養士の配置は、センターや大規模校は基準に沿って県職員の栄養士が各調理場に配置、それ以外の調理場には市と校友会が配置しています。食育面では、バイキング給食やマナー給食を実施、子どもたちが学校園で育てたお米やお芋を掘っては給食に取り入れたり、家庭科や生活科の教師として栄養士が入ることもあります。そのような時や毎日の給食の時間でも、偏食の多い児童や食事の遅い児童に声を掛けたりするなどのふれあいがあります。

(委員長) 小学校では特に子どもともふれ合いが大切であるということですね。

(委員) 私がこの会で発言しきれない部分がありますので、学校給食調理員部会で話し合ったことをまとめていますので、この場で皆様にお渡ししたいと思います。委員長よろしいでしょうか。

(委員長) よろしいです。

(近藤委員より各委員、事務局に配布)

(委員) 小学校において食育の大切さがわかっていらっしゃるから、新居浜市も各調理場に栄養士さんを配置してくれていると思う。このような時代だからこそ、学校での給食を通した食育の大切さを分かってほしいと思います。新居浜市の良い面である自校方式を続けていってほしいと思います。現場で働いている者として、自分たちの働いている環境を守るためだけに言っているのではなく、子どもたちにとって一番いい方法が自校方式だと確信しています。

(委員長) 近藤委員さんが提言に特に盛り込んでほしいというのはどの部分ですか。

(委員) たくさん書いていますが、温かいものを温かいうちに、食べる時間ぎりぎりに調理され、4時間目が来たら美味しそうな匂いが漂ってくるような学校を守りたい気持ちです。家庭と同じ食卓を私たちは何より大切にしたいと思っています。お金のことはよくわかりませんが、私たちは今まで頑張ってきたことをこれまで以上に行きたいとの気持ちです。

(委員長) 今までのいいところは続けていきたいとのことですね。ただ時代も変わってきていますので、その時々に応じたことも取り入れるのも大切だと思います。他に委員さ

んにご意見を伺います。

(委員) 教育委員会の立場で参加させもらっているのですが、各委員さんの考えをお聞きしながら、今後のこれから委員会で決めていきたいと思えます。自身も学校長の経験があり、学校給食の素晴らしさもよくわかっていますし、各委員のそれぞれの立場はよくわかります。一番大切なのは子どもたちにとって、何が一番いい方法かということを中心に考えながら私なりに決めたいと思えます。

(委員) 現在市では、学校施設などすべて含めて多くの施設を抱えており、給食室だけでなく学校全体の修繕に追われています。今回建替えた後しばらくは修繕も必要ないと思うが、老朽化しだしたころを考えると、予算面でみれば、施設は集約されたセンター方式のほうが維持管理面でも有利である。学校の統廃合問題も含め、柔軟に対応できるセンター方式がよいと思う。

(委員) 学校給食ということで、これから10年、20年のスパンで長期的に考えていく必要がある。自校方式にしてもセンター方式にしても、すべてをどちらかにするのか、それとも部分的にできる方を選択するのかなど、すべてを提言に盛り込むのは難しいと思う。どちらもいい面と悪い面があるので、この委員会ではっきりとした結論を出すのは難しいと思う。

(委員) 建築する立場から、グラウンドの照明やネットの更新など、様々な施設がつくられ、学校がだんだん狭くなってきているのが現状である。いずれは校舎や体育館の建替えも必要になり、自校方式となった場合、調理室だけを広くすることでいいのかという議論も当然出ると思う。敷地の有効活用を学校施設全体で考える時期に来ていると思う。

(委員) 歯科医師会からですが、新居浜市の児童の虫歯発生率は全国的にみても高いので、小学校低学年から非常に重要な生活習慣である「食育」を重要視してほしい。その意味では自校式がいいと思う。

(委員) 新居浜市の食育推進計画の中に学校給食のことが書かれている。その部分も欠けないように配慮してほしい。

(委員) 医師会としては、自校方式、センター方式を問わず、衛生管理とアレルギー対策をしっかりしてほしい。給食室の方式によってアレルギー対応の違いはあるのでしょうか。

(委員) 自校、センターによる対応の違いはありません。ただ急遽食材が変わったりするときに、保護者への対応だとか細かい部分でできるかどうか私ではわかりません。

(委員) 災害時の避難場所の話が多く出ていますが、当市が南海地震に遭うと震度6前後が予想されます。そうすると電気がまず止まります。電気が止まれば水道も止まり、電気の復旧は早くても2~3日はかかる。そうすると調理場はそのままでは使えないと思う。電気でも月に5万円ほど使う家庭の臨時の発電施設でも、500万円します。給食室を災害時にも使うということになればその点をどのように考えているのか。防災のことも考えるのは必要だが、莫大な経費が掛かると思う。

(事務局) 先日のことですが、「防災ハンドブック」が今回替わるので防災安全課と話をしています。内容としては、ここを備蓄倉庫としてここで炊き出しができないかということですが、ただ大野委員さん言われるように、電気・ガス・水道というライフラインがつながらない限り、この施設も稼働できません。ではどのように活用できるかということは、これから考えるという結論にしかありません。ライフラインが復旧した後、自校方式にしてもセンター方式にしても、どのようなことができるかということを防災安全課と協議することとなります。

(委員) 市民代表としては、単独方式にしてもセンター方式にしても、子どもたちが安

心・安全においしく給食が食べられることを第一に考えたいと思う。これからは地域の食育の拠点として給食の役割も考えていかないといけないと思う。学校給食の献立はいろんなことが考えられて作っており、和食文化の継承も考えながら、地域にも開かれた給食を何らかの形でそういう場ができることを望みます。

(委員長) 食の情報が氾濫している中、身近でそのような情報が得られる拠点として学校給食が活用できないかということですね。先ほど保健センターの件でも出ましたが、新居浜市で進めている食育に関して、様々なアプローチが必要ということだと思います。他にご意見がありましたら。

(委員) もしもの時に防災拠点として考えるのであれば、ライフラインの水については垣生で言うと、隣接する垣生公民館では井戸を掘っており、発電機を使用すれば水が手に入るので、水についてはそこまで汲みに行けます。あと、炊き出しの500人分の大釜も地域が防災倉庫に入れているので、あと食材を持ち寄ったら何とかなるんですね。これから給食室にそのような機能を持たせるにしても、他にもこのような事に対応できるということ、考えてほしいと思います。現在の垣生の取り組みもいざという時に機能するのではないかと思います。

(委員) ガスは都市ガスでないので、まあ大丈夫かなと。また井戸も最近よく掘られているようで、使えるようなら水道も替わりがある。あとやはり電気ですね。私は障がい者事業所もやっているのですが、避難時には極力発電機は持っていきましょうということになっています。

(委員) 中学校校長会でもう一つ不満があったのですが、中学給食の食器がもう少し温かみがあるものであればいいとの意見が出たが。

(事務局) 小学校は現在ポリプロピレンを使っており、中学校は開設当初からステンレスを使っております。今度の見直しで話し合った結果、全給食ではポリプロピレンに統一することに決定しております。ただセンターの洗浄器の調整をしなければならず、それをクリアできれば順次変わっていくようになると思います。

(委員長) それでは、これまでたくさんのご意見ご提案をいただきましたが、まず児童の給食について、給食の意義や食育について意見がありましたが、何よりおいしくしかも安心安全に給食を提供できるのが大切だと思います。皆さんのご意見をまとめて教育委員会に提言としなくてはいけません、副委員長と私で整理をさせていただいて案を次回の会で提示しまして、皆さんのご意見をいただいて最終的に決定したいと思います。ご異議がなければそのような段取りで次回の委員会をおこないます。

(3) 閉会 委員長のあいさつ

本日は、活発なご意見ありがとうございました。次回は皆さんの意見をできるだけ取り入れられるような提言をまとめたいと思います。

次回委員会は3月中を予定しております。できるだけ早く皆様にご連絡したいと思います。